

幌延深地層研究計画 平成 27 年度調査研究成果 報告会 質疑応答の概要

質問) ① 先ほど所長から三者協定 ([「幌延町における深地層の研究に関する協定書」](#)) を遵守するとの話があったので、研究期間は 20 年で終了し埋め戻すことだと受け止める。

② 人工バリア性能確認試験等で廃棄体を模擬したヒーターの設定温度は何℃か。
実際の処分事業では廃棄体は 100℃を超えることもあると聞いているが、温度が低いと意味が無いのでは。

回答) ① 協定書に記載がある「研究終了後には埋め戻す」等については守る。研究期間については、原子力機構の第 3 期中長期計画にも記載があるとおり、平成 31 年度末までに研究および埋め戻しの工程を提示する。

② 実際の処分事業では、オーバーパックの表面温度は最高 98℃ぐらいと解析しており、試験では多少上下することもあるが、近い状態で試験を実施している。

質問) 前回の副所長の挨拶で、意見・質問があればいつでも来て下さいと言っていた。私は早急に研究を中止すべきだと考えている一人。そういう立場ではいつでも行ってはいけないのか。賛成派・反対派で対応の区分けをするのか。

回答) 我々は区分けしているつもりはない。どなたが来ても公平に対応している。なお、お会いする日は事前に調整いただけるとありがたい。

質問) 清水川の水質調査について、年 4 回の調査を行っているということだが、もっとやった方がいいのではないか。

回答) これまでも、年 4 回の調査を実施しており、現状では、今後も同様の頻度で実施したい。

意見) 2011 年の福島事故で、原子力やこういった施設、科学とか技術に対する不安が、国民的に問題になった。現在も福島はまだ続いている。最先端の科学者や、原子力機構の技術者は、まず現在の福島の状態を収束させてほしい。

あそこで起こっている衝撃的な事実は、子供たちの精神状態を非常にナイーブにしている。これは、私達親の世代がもっと真摯に向き合う必要があると感じた。心に留めて欲しい。

そのような認識の中での研究で、やはりあってはならない原子力関連の施設であるということは、ちゃんと捉えて欲しい。その上での、話し合いとか意見を謙虚に受けて欲しいという要望。

質問) 安全意識の高揚に努めたとしているが、実際に労災などは平成 27 年にあったかだけでも確認したい。

回答) 幌延センターとしては、労災以外の事故・トラブルも含め本年 7 月末の時点で 1,560 日無災害を続けている状況。

意見) 今の原子力政策を見直す時期。地層処分なんていう無駄な研究を続けようとするために税金を払っている訳ではない。

質問) 福島事故を踏まえると、何日安全を続けているからとか、こういう成果があるから安全だというのはおかしい。何を根拠に安全と言っているのか。

回答) 地層処分を行う安全な場所を選べるか、埋設した後にどうなるかという研究をしている。それは、原子力機構が一方向的に安全だということではなく、大学の先生や海外の研究者などにレビューをしていただいて、第三者が評価をした上で、信頼性のある研究成果となる。

以上